

令和6年2月21日

(仮称)丸森町水防センター基本設計・実施設計業務委託
公募型プロポーザル
審査講評

プロポーザル審査委員会 審査委員長
佃 悠

はじめに、本事業の主旨をご理解いただき、全国から多くの提案をいただいたこと深謝いたします。水防センターという町の防災を支える基幹施設としての役割のみならず、住民の交流拠点や未来の観光資源としても期待される施設としての複雑な条件を、短い期間でまとめ上げていただきました。これは、多くの方のご尽力あってのことと思います。本事業に関わった全ての方に改めて感謝申し上げます。

1次審査では、提出された21案に対して、予備投票を行った後、委員それぞれの専門的知見から、意見を交わし選定を行いました。結果として、町のシンボルとなる建築としての力強さ、周辺環境との関係性や景観への適切な配慮、水防センターとしての防災関連機能への理解、長期的なライフサイクルコストへの具体的提案、そして今後町民の方々と一緒に建築を作り上げる力を評価された5者を選定しました。

公開で実施された2次審査では、選出された5者からのプレゼンテーションの後、審査員による質疑を行いました。その後の審査では、再度一案一案について、委員の意見を開陳し、提案内容を丁寧に読み解き、本事業に相応しい提案かどうか議論を重ねました。いずれも甲乙つけ難い提案でしたが、最終的に互いに異なる特徴を持つ2案に対して、再度審査委員それぞれの意見を出し、長時間の議論を経て最優秀者を選定しました。

この水防センターには、町民の多くが期待を寄せています。公開となった2次審査会でも予想を超える聴衆が来場し、その大きさを感じさせました。選定は終わりましたが、これからが本当のスタートとなります。最優秀者には、この水防センターに関わる関係者の声に真摯に向き合い、丸森町の方々の誇りとなるような建築を実現していただくことを期待しています。

【2次審査対象者への個別講評】

[No.18]PHa+石森設計共同体 受託候補者（最優秀者）

水防センターとして最も重視される防災機能を深く理解し、水防活動や一時避難時に有効性の高い内部空間、フェーズフリーを想定した利用柔軟性の高い稼働間仕切りの提案、周辺環境を深く読み込んだ上での敷地利用の考え方を提示した点などが高く評価されました。一方で、長期的な維持管理や景観的な側面からみた外観や屋根形状、地盤面下の構造形式、コスト高の要因となりうる面積や開口部の仕様、将来設置が予定されている民間事業者エリアとの連続性については、課題が残されているこ

とが審査委員会で指摘されました。しかし、これらの課題についても、町民との真摯な対話の中で解決の糸口を見つけ、よりよい建築に発展させてくれる設計者であろうと判断しました。以上を総合的に考え合わせ、最優秀者として選定しました。

[No.20]NHA・中央復権・上條福島設計共同体 次点者（優秀者）

将来的なコスト高を見込んで当初から大きく建築面積を減らした上でまとめられた挑戦的な提案でしたが、周辺環境・敷地空間・建築空間をシームレスに関連付けたそのデザインスキームの完成度は高く、今後設計を練り上げるにあたって柔軟な対応可能性を感じさせました。一方で、防災機能に対して十分な空間形態が与えられていないことや分棟形式による管理運営上の不便さについて、この優れたスキームを維持したままどこまで対応可能かということが議論となりました。最後まで最優秀案を争いましたが、惜しくも次点となりました。最優秀者との差はわずかで、こちらにも非常に優れた提案でした。

（以下、発表順）

[No.6]楠山設計・yeto 設計共同企業体

外観を特徴付けるスロープが、平時にも非常時にも来訪者のよりどころとなるフレキシブルな利用可能性を感じさせた一方、敷地配置の手がかりとした河川への軸線が建築計画として表れていない点、外壁に使用する木材の劣化対応や雨水に直接曝される大きなスロープの汚損・排水処理等への検討がさらに必要である点などが指摘され、最終的には高い評価を得ることができませんでした。

[No.16]芦沢・菅野設計共同体

まとまりのある内部空間が提案されており、水防団の作業を行うアトリウムや防災学習室を積極的に見せる配置としている点や、サインを用いながら屋上から丸森の各所を展望できる点などが評価されました。しかし、複数設けられた外部階段による周辺環境との繋がりへの積極的な提案が見られなかった点、過大な危機対応性や階段等意匠的な面によるコスト高への懸念が残る点などが指摘され、最終的には高い評価を得ることができませんでした。

[No.5]株式会社遠藤克彦建築研究所

シンプルな平面形状にまとめられた建築としての完成度の高さ、ワークショップや防災教育など町民との豊富な対話機会の提案、発表者の誠実な対応を感じさせる質疑応答などが、審査委員会において高く評価されました。一方で、水防活動時の空間利活用の有効性や、意匠を特徴付ける大階段や屋根形状に関して周辺環境や景観の関係の中での必然性について疑義が呈され、あと少しのところまで最終の2案に残ることはできませんでした。